**石澤　善次郎 （いしざわ・ぜんじろう）**

**１、プロフィール**

昭和５年にアスナロ短歌会に入会。機関誌「アスナロ」を発刊、編集を担当。横山武夫主宰逝去後は、会の代表となり、東奥日報社の県短歌大会選者、県歌壇役員を長く務めた。

＜生没＞

1913（大正２）年６月３日～1999（平成11）年６月３日

＜代表作＞

 　歌集『山脈』『浜木綿』

故人歌集『羅漢柏の三人』

＜青森との関わり＞

父多吉、母すゑの次男として青森市博労町67番地（現青柳２丁目８の24）に生まれた。

**２、作家解説**

大正２年、米穀商の次男として誕生し、昭和６年３月青森県立商業学校を卒業。４月から家業の米穀商に従事、青森米穀卸株式会社監査役、専務取締役、取締役社長、食糧配給公団県支局課長、県食糧事業協同組合連合会理事、副会長等を歴任して県食糧業界の発展に貢献する。

作歌を始めたのは、商業学校在学中に恩師横山武夫より短歌を教えられて以来であり、昭和５年５月、横山武夫主宰のアスナロ短歌会に入会する。それ以後、歌誌「アスナロ」発刊、編集を担当する（44年１月より「アスナロ」は月刊となる。）

藤沢古実主宰国土短歌会入会（14年４月）第一歌集『山脈』発行（30年８月）県歌人懇話会理事となり「青森県歌集」の編集と校正を担当（31年６月より）青森県短歌大会選者（東奥日報社主催、42年９月より）歌誌「アスナロ」創刊50周年記念号発行（54年８月）故人歌集『羅漢柏の三人』発行（石澤善次郎編集、自費出版（62・２）東奥歌壇選者（63・１より）県歌人懇話会短歌賞、功労賞選者（63年より）主宰者横山武夫逝去のあと、会の代表者となる（平元・８）斎藤真一遺歌集『暁滴集以後』を編著、発行。横山武夫遺歌集『南窓山房吟』を第２歌集『浜木綿』発行（平成８年12月）編著、発行。歌誌「アスナロ」にジュニア欄を設け、中学生の作歌指導育成に務めるなど本県歌壇における文化の向上、発展に貢献した。表彰歴。県文化振興会議会長表彰（平成元年）、第18回青森県歌人功労賞（平成５年）、県歌人懇話会会長表彰、青森市短歌連盟会長表彰（平成６年）、第３回県芸術文化振興功労章（平成７年）。

代表作

山に来て心しづまる夕焼けの映らふ沼の水にむかひて（『山脈』より）

朝の日のいまだとどかぬわが庭にはまゆふの浄き香りただよふ（『浜木綿』より）

**３、資料紹介**

〇歌集『山脈』

図書

1929（昭和4）年～1953（昭和28）年

181㎜×127㎜

第１歌集。昭和４年から28年までの歌479首を収める。恩師横山武夫主宰の初期アスナロ、国土、再刊後のアスナロ時代の著者が「三方を低い山脈に囲まれているこの青森に育ち、八甲田山の明け暮れに親しみ、山歩きによって友情が更に深まり、作歌の動機となった」と言う深い思いが詠まれている。